

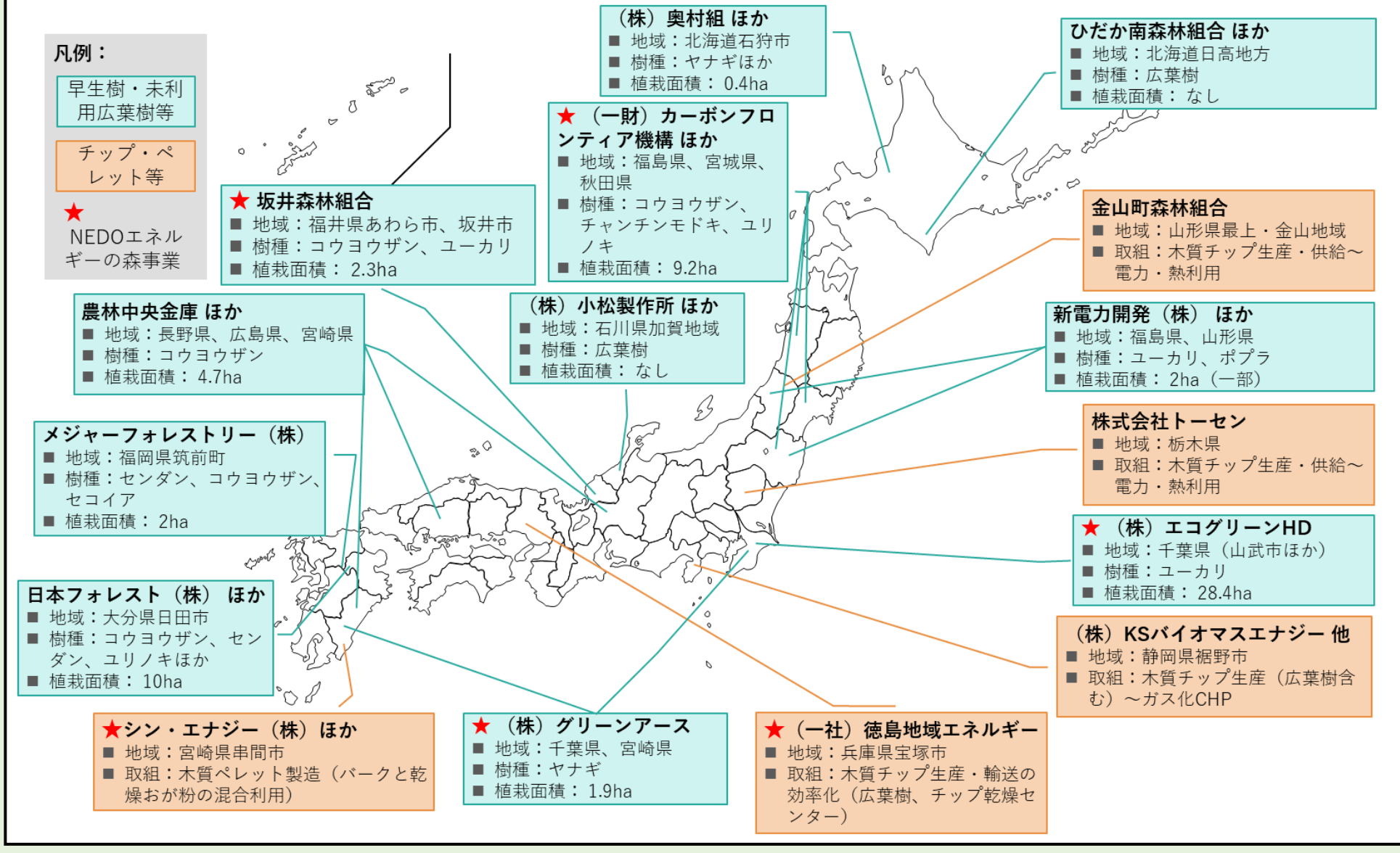
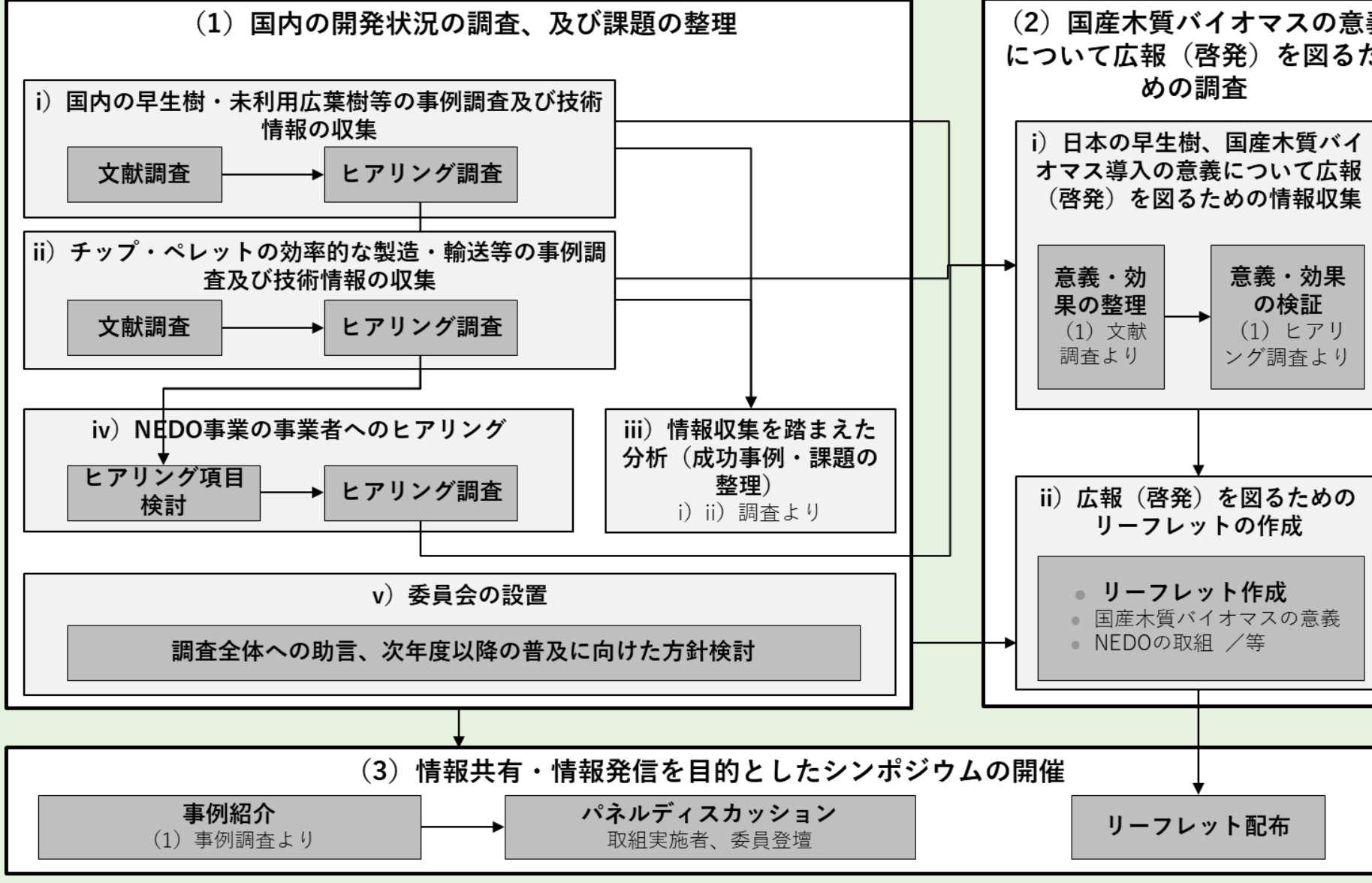
早生樹等による燃料用国産木質バイオマス生産・供給の普及に向けた調査

団体名：三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

発表日：2025年7月16日

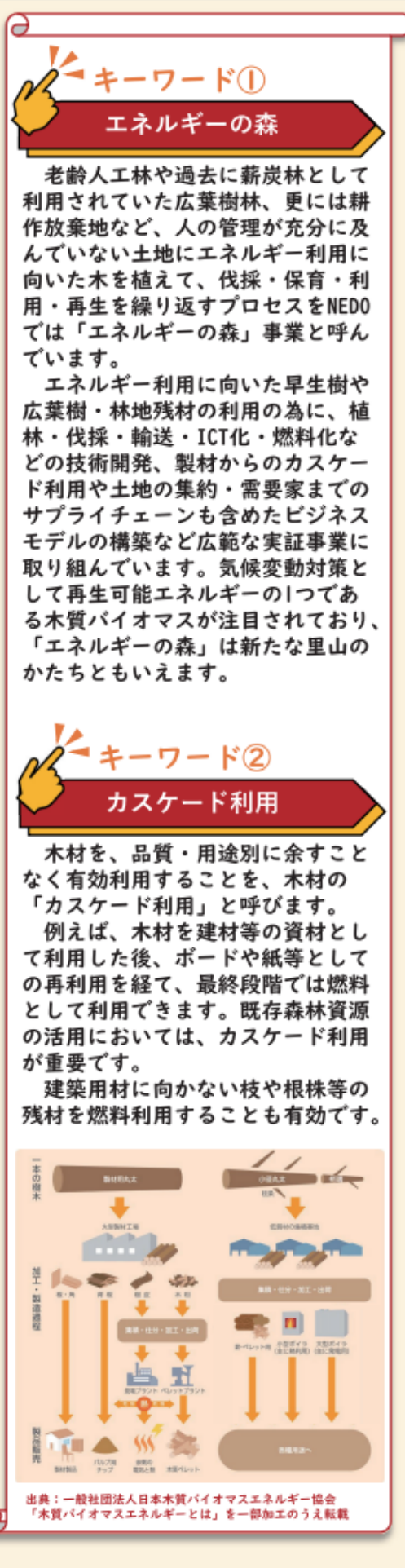
事業概要

- **目的：**
 - 「エネルギーの森事業」成果の普及を目的に、先行事例等の情報を収集しNEDO事業へのインプットや今後の普及に向けた成功要因・課題等の整理を行うこと、そうした調査や取組の成果を広く一般、及びこうした事業の実施を検討する関心層に対して情報発信を行う
- **目標：**
 - 上記目的に基づき、今後数年間今後数年間をかけて取り組む方針の普及・啓発方策（事業実施のための技術指針の作成等／等）を念頭に、必要な情報を収集・整理・分析する
- **成果：**
 - 上記目標を達成
 - 普及・啓発のためのリーフレットを作成・公表
 - シンポジウムを開催
- **事業期間：** 2024年7月～2025年3月



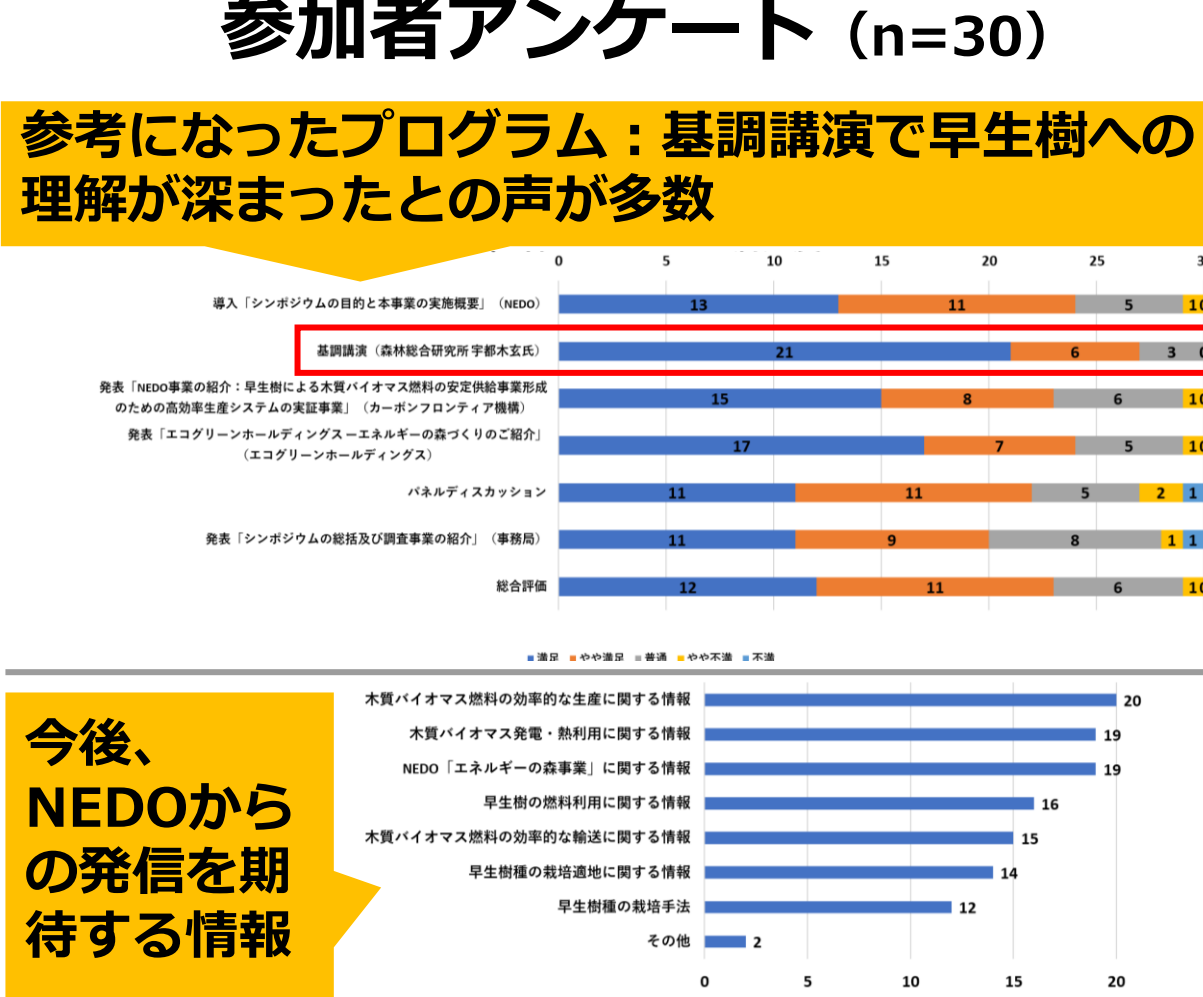
調査結果

- **リーフレットの作成**
 - 情報収集（文献・ヒアリング調査）結果をもとに、一般向けの周知を目的としたリーフレットを作成・公表



- **シンポジウム開催（2025年3月4日）**
 - 目的：「早生樹等の国産木質バイオマス生産・供給に関する普及・啓発のために、当該活動に関心を有する民間事業者等に対し、エネルギーの森事業の進捗・成果並びに本調査事業における調査結果を提示し、現場の実態、取組実施における課題、課題を克服するためのアイデア等について認識を共有すること」
 - 対面・オンラインのハイブリッドで開催

プログラム	
開会	大野 昌久（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）
主催者挨拶	主権者 佐々木 孝（国立研究開発法人 森林総合研究所）
基調講演	第1部：木質バイオマスエネルギーの効率的な利用に向けて NEDO「エネルギーの森事業」実証事業者からの取組発表 （休憩） 第2部：パネルディスカッション 【議題（予定）】 ・国産木質バイオマスエネルギー利用の課題と、解決に向けた現場の取組 ・国産木質バイオマスエネルギー利用の普及に向けたアイデア シンポジウムの総括及び調査事業の紹介 閉会
主催者挨拶	山田 宏之（国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構）



次期への示唆

【早生樹等の利用に関するポイント】

- 最も重要なのは、その強みである「**成長力**」を発揮すること。樹種により生育条件が異なることから、地域やその微小地形（土壌・水分・日照等）による生育要件を明らかにし、**適地適木**の早生樹栽培を推進していくことが必要
- そのうえで、早生樹の栽培に際し実際のプロセスで留意すべきポイント：
 - 適地の用地を一定面積確保すること（**用地確保**）
 - 成長力のある苗**を確保すること
 - 獣害対策**を高い費用対効果で実施すること
- まずわが国で重視すべき樹種は「**ヤナギ**」「**ユーカリ**」「**コウヨウザン**」の3つ
- 加えて、かつての里山等に賦存し現在未利用となっている広葉樹や、林地残材の効果的な活用もあわせて考えることが必要

【木質バイオマス燃料の製造・輸送の効率化】

- **製造・輸送のみならずその利用まで含めたシステム設計**が必要
- 地域のバイオマス資源の賦存量・利用可能量、地域におけるエネルギー需要（施設の地理的分布や必要な電力・熱源の種類等）を踏まえ、無理のない設計をしていくことが重要
- 地域の素材生産事業者、木材産業事業者、発電・熱供給事業者、エネルギー需要家らが連携体制を構築して地域エネルギーシステムを構築することが必要